

# ダンスカフェサロン in あうるすぽっと 2018

前期・後期 全6回・各回 120分(休憩有)・開場は開講の30分前

## 前期「コンテンポラリーダンスの可能性」

2018年のダンスカフェサロンは、急速に発展を続けているアジアのダンスシーンに注目しながら、世界で同時進行的に発生している新たなコンテンポラリーダンスの可能性を紹介するセミナーです。最終回のシンポジウムでは、国内外におけるダンスシーンの歴史を振り返りながら、ダンスの発展と可能性を次世代へと伝えていきます。

**1** 8月28日(火)19:00  
「インド舞踊～世界に向けて、小野雅子が語る～」  
講師：石井 達朗(舞踊評論家)  
ゲスト：小野 雅子(インド舞踊家/オディシャ州在住)

**2** 9月29日(土)19:00  
「ケイタケイの伝統と前衛～モダンとポストモダン～」  
講師：西田 留美可(舞踊評論家)  
ゲスト：ケイ タケイ  
(ケイタケイ'sムービングアース・オリエントスフィア主宰)

**3** 10月20日(土)19:00  
「海外ダンス経験をコンテンポラリーダンスの  
活性化にいかす」  
講師：稲田 奈緒美(舞踊評論家)  
ゲスト：渡辺 レイ(オランダ元 NDT ダンサー/Opto(オプト)主宰)

### ダンスカフェサロン in あうるすぽっと

国内および海外のダンス・パフォーマンスなどの動向を分析、研究する方々を講師として招き、「あうるすぽっと」と「ダンスカフェ」によって共同開催しています。また同時代を生きるジャーナリスト、評論家、劇場関係者、舞踊家との対話を通じて「コンテンポラリーダンスの可能性」について考えていく場でありたいと思っています。

※講師、ゲスト、日時等、一部変更する場合がございます。  
※前期詳細は裏面を御覧ください。 ※敬称略



東京メトロ有楽町線「東池袋駅」6・7番出口より直結  
JR 他「池袋駅」東口よりグリーン大通り直進徒歩 10分  
都電荒川線「東池袋四丁目駅」より徒歩2分  
〒170-0013 東京都豊島区東池袋4-5-2  
ライスアリーナビル 3F  
TEL.03-5391-0751  
<http://www.owlspot.jp>

会場：あうるすぽっと3階会議室 B  
料金：500円 定員80名 / 予約優先制  
企画：ダンスカフェ  
<https://www.danceartcenter21.com/>  
お問合せ：ダンスカフェ  
tel.fax.03-3975-6405  
dancecafe-21@krb.biglobe.ne.jp  
ご予約：あうるすぽっとホームページ  
<https://www.owlspot.jp/>  
※ワークショップ・レクチャー一覧  
よりお申し込み下さい。



### 後期予定

- 4** 11月17日(土)19:00  
「障害のあるアーティストによる  
ダンスの現在と未来 — 英国の事情を中心に」  
講師：吉野 さつき  
ゲスト：南村 千里(デフ・ダンスアーティスト)
- 5** 12月15日(土)(予定)  
「フランス、コンテンポラリーダンス  
とバニョレ国際振付コンクール」  
講師：佳手 芙美(舞踊評論家) ゲスト：後日発表
- 6** 2019年1月予定  
シンポジウム  
「コンテンポラリーダンスの可能性」

20世紀後半、登場したコンテンポラリーダンスは次世代に我々の眼を輝かせてくれるのでしょうか。各分野からゲストを迎えてこれまでの意義、そして次世代に向けて問題提起したいと思います。



写真提供：小野雅子

講師：石井 達朗(いしい たつろう)  
舞踊評論家。ニューヨーク大学(NYU)大学院演劇科フルブライト研究員・同パフォーマンス研究科ACLS研究員などを経て、慶大名誉教授、愛知県立芸大客員教授。関心領域として、サーカス、アジアの身体文化、ポスト・モダンダンス以降のダンス、パフォーマンスアート、ジェンダー/セクシュアリティとパフォーマンス。朝日新聞、ダンスマガジンほか、さまざまな媒体に執筆。著書に『異装のセクシュアリティ』、『身体の臨界点』、『男装論』、『アジア、旅と身体のコスモス』、『サーカスのフィルモロジー』、『ポリセクシュアル・ラヴ』ほか



Photo by Tomosai

講師：西田 留美可(にしだるのみか)  
ダンスジャーナリスト・ダンス批評。新聞や批評誌「DANCEART」「シアターアーツ」等で執筆。ケイ タケイとの出会いからダンスに開眼した。いくつかの舞踊批評誌の活動を経て、現在AICT、JaDaFo会員、舞木の会協同代表。共著に『ケベック発パフォーマンスの未来形』(三元社)、『ケベックを知るための54章』(明石書店)、『踊る人に聞く』(監修：山野博大/三元社)『江口隆哉・宮操子 前線舞踊慰問の軌跡』(大野一雄舞路研究所)

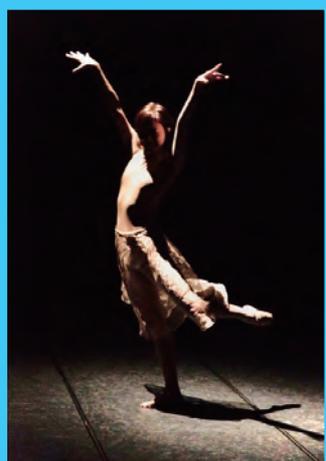


Photo by Ryu Endo

講師：福田 奈緒美(いなた なおみ)  
早稲田大学第一文学部卒業後、社会人を経て、早稲田大学大学院文学研究科修士課程、後期博士課程に進む。博士(文学)。現在、桜美林大学芸術文化学群演劇・ダンス専修准教授として、舞踊評論家として、バレエ、コンテンポラリーダンス、舞踏、コミュニティダンス、アートマネジメントなどダンスを中心に理論と実践を結びつけた研究、評論、教育活動に携わっている。

## {第1回} 8月28日(火) 19:00 開講 「インド舞踊～世界に向けて、小野 雅子が語る～」

講師：石井 達朗(舞踊評論家)

ゲスト：小野 雅子(インド舞踊家/オディシャ州在住)

インド在住21年の小野 雅子は、東インド・オディシャ州のオディッシーを一筋に学び、いまではオディッシー舞踊の第一人者としてインド国内、日本、欧米に活動の輪を拡げています。2007年のニューズウィーク誌で「世界が尊敬する日本人」の一人に選ばれたほか、NHK BSの「ファースト・ジャパニーズ」でも彼女の特集が放映されました。近年はコンテンポラリーダンスに強い興味をもち、スウェーデン・ストックホルムのオーケストラとの共演を果たしました。彼女が国や文化や言語の壁を越えてここまで到達した姿は、ダンスを志す多くの人に勇気を与えることでしょう。さまざまな映像を交えた小野雅子の本音トークに御期待ください。



小野 雅子(おの まさこ)：東京都出身 インド オディシャ州在住。

モダンダンス、ヒップホップ等を経て、1996年からオディッシーダンスを学ぶために渡印。世界レベルのインド舞踊家を育成輩出するインド舞踊名門校ヌリッティアグラムに入門。1998年からヌリッティアグラムのダンサーとして、数多くの公演活動をするともに、日本でレクチャー・デモンストレーションやワークショップを開く。2001年からソロ公演を始め、北米、アジア、ヨーロッパの世界各都市にて公演。2007年から日本人としては唯一のインド政府公認オディッシーダンサーとなり、現在は、ソロ公演を中心に活動しています。コンテンポラリーダンサーやフュージョンミュージシャン、ファッションデザイナーとのコラボ展開をしている。

## {第2回} 9月29日(土) 19:00 開講 「ケイ タケイの 伝統と前衛～モダンとポストモダン～」

講師：西田 留美可(舞踊評論家)

ゲスト：ケイ タケイ(ケイタケイ'sムービングアース・オリेंटスフィア主宰)

アンナ・ソコロウ\*に「あなたは正直だ」と言われ、ポスト・モダンダンス華やかなりし60年代末のニューヨークに旅立ち、Moving Earthを結成したケイ タケイ。以来92年に帰国するまで四半世紀、グラハムやカニングハムとは異なるもう一つの潮流の担い手の一人として次々と作品を発表。アメリカで作った『ライト』シリーズは30作にまでなり、今では40作を越えています。2018年1月には、3週間にわたるアメリカツアーを行いました。アメリカに見出され、アメリカで鍛えられ、アメリカのダンスに貢献した1人として名を連ねたケイ タケイさんに、自らのダンスとアメリカについて語っていただきます。

\* アンナ・ソコロウ(1910-2000)グラハム・カンパニーでソロとして活躍の後独立。ジュリアード音楽院で長年教育にも携わり、フルブライト奨学金の審査員として来日の際にケイタケイを推薦した。



Photo by YASKEI

ケイ タケイ：1967年渡米、1969年(LIGHT, Part1)にてニューヨーク・デビュー。現在、Part47まで発表。78年ネザールランド・シアターに委嘱作品の振付。アメリカン・ダンス・フェスティバル講師、ヨーロッパ公演ツアー。82年イスラエルのインバウ・カンパニーの作品に振付けなど、各地で活動。《24時間 LIGHT》を90年米国ミネアポリスにて、その後東京、ベルリン、英国ウエールズにて上演。1994年以降シアターX I.D.T.Fにて振付。出演。98年長野オリンピック文化芸術祭参加作品に振付。09年から、現在のメンバーとともにLIGHTシリーズを再開。日本舞踊批評家協会賞(1979)、Meet The Composer 賞(1991)、第27回ニムラ舞踊賞(2007)、第29回江口隆哉賞及び江口隆哉賞に係る文部科学大臣賞(2012)などを受賞。現在、能楽師 岡庭 善昭に師事。

## {第3回} 10月20日(土) 19:00 開講 「海外ダンス経験をコンテンポラリーダンスの活性化にいかす」

講師：福田 奈緒美(舞踊評論家)

ゲスト：渡辺 レイ(オランダ元NDTダンサー/Opto(オプト)主宰)

近年、数多くの日本人ダンサーが海外のパレエ団、カンパニーで活躍していますが、帰国後に活躍の場を確保するのは容易ではありません。彼等の優れた才能と幅広い経験を日本の舞踊界で活かし、レベルアップを図ったり、多様でオリジナリティに溢れた作品を創造することはできないでしょうか。また、そのために整えるべき環境や仕組みは何でしょうか。ゲストの渡辺レイは、ヨーロッパ有数のダンスカンパニーで活躍したのち帰国し、「Opto」を立ち上げました。現在はOpto公演を主催し、海外でプロのダンサーとして活躍していた仲間と共に、スタイリッシュで斬新な作品を発表し続けています。また本年2月、K-BALLET COMPANY公演では『FLOW ROUTE』を振付、12月には、彩の国さいたま芸術劇場と愛知芸術劇場で『optofile\_touch』公演が催されます。彼女と共に、職業としてのダンス、作品の振付、演出から公演の制作、カンパニーの運営まで、海外と日本での経験を基に、日本のコンテンポラリーダンスを活性化するための方策を考えます。



Photo by Joris-Jan-Bos

渡辺レイ(わたなべ れい)：群馬県太田市出身。

4歳よりバレエを始める。山本禮子に師事。東京新聞全国舞踊コンクール第1位受賞。1993年オランダのネザールランドダンスシアター 2に入団。1997年に フランスリヨン・オペラ座パレエ団へ移籍。1999年スウェーデンのヨーテボリ・オペラ・バレエに移籍。2002年ネザールランドダンスシアター 1で活躍。2005年、スウェーデンのクルベルグバレエに移籍。2000年、マルティノ・ムラー振付『ロミオとジュリエット』のジュリエット役でベストダンサー賞を受賞。世界的に著名な振付家イリ・キリアン、ウィリアム・フォーサイス、マッツ・エック、オハット・ナハリンなど数多くの作品を踊る。ヴァツラフ・クネシュ率いる「420people」、金森 稔率いる新潟「Noism07」北南米ツアーなどに出演。2012年より日本を拠点とし、「Opto」を結成。